

# 周縁的二重目的語構文についての一考察 — 間接目的語がトコロ名詞である場合を中心に —

葛 婧

大阪大学言語社会研究科・博士後期課程

キーワード： 二重目的語構文、周縁的、<トコロ>名詞、眼前描写性、拡張

要旨：

現代中国語の二重目的語構文は、最も典型的な場合モノの<授受>を表し、間接目的語が<ヒト>名詞からなるものが無標である。しかし現実には、下例(1)のように<授受>を表さない二重目的語構文もある。また例文(1)は、例文(2)のように言い換えることも可能である。

- (1) 溅了 她 一裙子 茶水。
- (2) 溅了 她裙子上 一些 茶水。
- (3) 他们 抢了 银行 一麻袋 钱。(古川 1997)
- (4) 老师 写了 黑板上 一个 通知。(同上)

例文(1)の間接目的語は<ヒト>名詞“她”であり、例文(2)の間接目的語は<トコロ>名詞“她裙子上”である。古川裕《谈现象句与双宾语的认知特点》(《汉语学习》1997年第1期)によれば、中国語の二重目的語構文の間接目的語となる成分は、<ヒト>名詞が典型的であり、<トコロ>名詞は非典型的であるとされている。以上の例文が示すように、二重目的語構文は、間接目的語に注目した場合、例文(1)の<ヒト>名詞“她”から例文(3)の方位詞を伴わない<トコロ>名詞“银行”へ、さらに例文(2)の方位詞を伴った“她裙子上”、(4)の“黑板上”へとリンクしていると考えられる。

また、例文(1)は、彼女の<トコロ>にお茶が出現したというふうにも理解でき、<ヒト>が<トコロ>として捉えられる。このようなメトニミー認知プロセスを経て、[+トコロ]属性のないヒト名詞は、[+トコロ]属性と[+ヒト]属性両方を持つ<トコロ>名詞へ、さらに、[+ヒト]の属性を持たない<トコロ>名詞へと拡張する。典型的な二重目的語構文から本稿で考察する周縁的な二重目的語構文へは、間接目的語 N1 になる名詞成分の意味特徴は、

[+ヒト][−トコロ]→[+ヒト][+トコロ]→[−ヒト][+トコロ]

というような拡張ルートを進む。また、N1 の意味役割は、N2 の存在する/した<トコロ>である。N1 は単独の<トコロ>名詞ではなく、「トコロ名詞+方位詞」という形式で現れることが多い。

構文の意味は、「**所有権の移動は物理移動**」というメタファーにより動機付けられ、

<所有権の移動>を表す典型的な二重目的語構文から、<空間移動>を表す周縁的な二重目的語構文へと拡張する。

間接目的語がトコロ名詞である二重目的語構文は大変まれな構文であり、書き言葉での使用は少ない。本稿の考察を通して、この種の構文には<眼前描写性>を持ち、<動的>なイベントを描写する場合に用いられることが分かった。たとえば、

(5) (刚才) 落 树上      一只 鸟。

(6) (这会儿) 躺 床上      一位 病人。

また、本稿で考察する構文の V には[+空間移動性]という意味特徴を有し、もともと V 自身に[+空間移動性]を持たない動詞も、構文に入ると構文の圧力で[+空間移動性]を持つようになる。

#### 参考文献

- 今井俊彦 2002 「中国語における二重目的語文の希少性」、『中国語学』249号。  
木村英樹 2002 「Zの所有領域」、『中国語』3月号, 65頁。  
杉村博文 2006 「中国語授与構文のシンタクス」、『大阪外国語大学論集』第35号。  
古川裕 1997 谈现象句与双宾语句的认知特点,《汉语学习》第1期。  
刘丹青 2001 汉语给予类双及物结构的类型学考察,《中国语文》第5期。  
沈阳 1994 《现代汉语空语类研究》, 山东教育出版社。  
徐德宽 2004 《现代汉语双宾构造研究》, 上海辞书出版社。  
张伯江 1999 现代汉语的双及物结构式,《中国语文》第3期。  
张国宪 2001 制约夺事成分句位实现的语义因素,《中国语文》第6期。